

勤務医部会だより

女性医師を支援する院内保育所を目指して



幹事 成瀬 達

(みよし市民病院 病院事業管理者)

みよし市民病院に着任して11年目となる。この4月に、念願の院内保育所を開所することになった。建設にあたり掲げた目標は、次の3点である。

- 地域のために働く女性を支援します
- 自然の力を利用して快適な育児環境を整えます
- CO₂削減と気候変動への適応に取り組みます

保育所に関しては愛知県の公立病院として最後尾を拝したこともあり、利用者の視点で計画した。通常保育室116m²、病児病後児保育室71m²、包括保育室36m²の3つの独立したゾーンを設けた。包括保育室は夜間保育と、学童保育など突発的な利用希望に柔軟に対応することを想定している。インフルエンザの流行のため学級閉鎖になった時などが、これにあたる。人材確保が目的なので、病院としては医師と看護師を優先するが、利用者は常勤・非常勤を問わない。子供の発熱により預け先に困った代務の医師の、子連れ出勤が可能となる仕組みである。病児保育は小児科医の協力なくしては成り立たない。幸い、小児科医自身が保育所を利用することとなっている。看護師に負担感がない利用料は、月収の10%程度？この利用料では必要な運営費の10%程度となり、残りは病院負担となる。病児保育や包括保育の成否は、当日の朝に人を確保ができるかにかかっている。OG達に保育所のサポーターになってくれるように頼んでいる所であるが、看護部と協力して是非、成功させたいと思っている。

働く女性が、こんな所に住んで、子供を育てたいと思うような「居心地の良い家」をコンセプトにした。アメダスのデータを基に採光、通風、植栽など自然の力を利用する木造のソーラーハウスとした。冬には屋根の太陽熱集熱装置で温めた空気をダクトで床下に導いて、建物全体を床暖房する。子供達がゴロゴロできるように、床は無垢板で肌触りの良い

仕上げとした。高断熱・高気密仕様であるが、外気を温めて使うので換気は十分である。春や秋に冷え込めばソーラーシステムが自動で暖気を取り込み、室温が上昇すれば自動で排気が変わる。夏のプールや砂遊びの後のシャワーには、太陽熱温水器で作ったお湯を使う。障子は日ざしをやわらかな光に変えてくれる。ガラリ戸と組み合わせると、昼寝の時の明かりと通風を微妙に調整できる。破れやすいと反対もあったが、年末に親子で障子を張替えるのも日本文化の継承ということで認めていただいた。

岡崎市、豊田市、安城市、知立市、みよし市の西三河5市は共同してエネルギーの地産地消を進め、地球温暖化対策に取り組んでいる。2015年に日本第一号となる首長誓約を行い、「持続可能なエネルギーアクションプラン」を推進している。エネルギーの地産地消、温室効果ガス排出削減、気候変動への適応が3つの柱である。「パリ協定」では、すべての国が参加して、21世紀後半に温室効果ガスの排出を実質ゼロにする目標を立てている。日本は2030年度までに、温室効果ガスの排出を2013年度比で26%削減する目標を掲げている。みよし市は、国の目標を上回る28%削減を目指している。家庭部門では、市民1人当たり1日1kgのCO₂削減が目標になる。

保育所のソーラーシステムの設置には、国の平成29年度二酸化炭素排出抑制対策事業等補助金を受けた。13.4kWの太陽光発電モジュールは年間1.4万kWhの電力を生み出し、暖房を含めた年間消費電力量の40%を賄う。一方、太陽熱暖房は年間2.1MJの暖房削減効果があり、エアコン単独に比べ省エネ率は27%となる。また年間CO₂削減量は太陽光発電で8.35t、太陽熱暖房で4.46t、計12.81tと1日当たり35人分の目標が達成できる。一般家庭では余剰電力は売電するが、その分は電気料金に上乗せされる。保育所の余剰電力は病院が使うので(地産地消)、国民の負担にはならない。平成22年制定の法律に従い、みよし市も公共建築物における木材の利用を促進することとなっている。森林環境税ではなく、次世代に引き継ぐことのできる良質な木造の家や家具を積極的に利用することが、温暖化対策として重要な森林を守ることになる。友好都市の木曾町の木材や豊田市稲武産の家具を使うことにより、子供達に身近な森の役割を学んでもらいたい。